

【文献】

- 1) 加藤勝也、岸本卓巳、武島幸男、藤本伸一、玄馬顕一、青江啓介、井内康輝：腹膜中皮腫症例のCT所見の検討. 平成18～19年度厚生労働科学研究 中皮腫発生に関わる職業性石綿ばく露の研究報告書：37-42, 2008.
- 2) Takeshima Y, Inai K, Amatya VJ, Gemba K, Aoe K, Fujimoto N, Kato K, Kishimoto T: Accuracy of Pathological Diagnosis of Mesothelioma Cases in Japan -Clinicopathological Analysis of 382 cases-. Lung Cancer (in press), 2008.
- 3) Kabapci M, Vardareli E, Adapinar B, Acikalin M: CT findings and serum ca 125 levels in malignant peritoneal mesothelioma: report of 11 new cases and review of literature. Eur Radiol 13: 2620-2626, 2003.
- 4) Whitley NO, Brenner DE, Antman KH, Grant D, Aisnar J: CT of peritoneal mesothelioma: analysis of eight cases. Am J Roentgenol 138: 531-535, 1982.
- 5) Reuter K, Raptopoulos V, Reale F, Krolikowski FJ, D' Orsi CJ, Graham S, Smith EH: Diagnosis of peritoneal mesothelioma: computed tomography, sonography, and fine-needle aspiration biopsy. Am J Roentgenol 140: 1189-1194, 1983.

## おわりに

本研究の趣旨を理解いただき、研究へのご協力にご同意いただいた石綿粉じんを取り扱っている労働者の方々及び石綿健康管理手帳を取得しておられる皆様方に心より感謝の意を表します。

石綿健康診断における胸部 CT 撮影条件設定、評価表の作成等については、研究分担者の芦澤和人、荒川浩明、加藤勝也が担当した。石綿健康診断の際に低線量 CT 撮影を行なった医療機関は独立行政法人労働者健康福祉機構岡山労災病院、千葉労災病院、富山労災病院、独立行政法人国立病院機構近畿中央胸部疾患センター、山口宇部医療センターおよび玉野三井病院であり、平成 21 年 3 月 16 日現在で 798 例の皆様に協力をいただいた。胸部 CT のデータ集積は研究分担者の青江啓介、加藤勝也、坂谷光則、水橋啓一、由佐俊和が担当した。また、データ解析の方法論については研究分担者の鈴木勇史が担当した。これらの症例については画像の解析中であり、研究分担者の玄馬顕一が肺の線維化の程度と職業性石綿ばく露濃度別の解析を行った。石綿肺がんおよび中皮腫早期発見のために有意義であるかどうか今後のさらなる検討が期待される。

また、石綿肺症例 25 例については臨床および病理学的な見地から改めて石綿肺の確定診断を試みた。研究代表者である岸本卓巳、研究分担者の玄馬顕一、加藤勝也と研究協力者の藤本伸一が臨床医の立場から、また、研究分担者の井内康輝と研究協力者の武島幸男が病理医の立場から意見を述べた。今回のように剖検肺を使用した病理学的な石綿肺の診断には問題があることが判ったので、次年度以降は手術肺等病理組織材料の変更も考慮された。

平成 18、19 年に死亡した中皮腫 2,118 例の人口動態調査死亡票からの解析は研究分担者の青江啓介、三上春夫が担当した。三上は、平成 15～17 年の中皮腫死亡例に今回の 2,118 例のデータを加えて、日本における中皮腫症例の将来予測を行なった。

また、中皮腫確定診断のための中皮腫パネルが研究分担者の井内康輝を中心として年 2 回広島と東京で開催された。本研究班からは由佐俊和が 2 演題、玄馬顕一、青江啓介が各 1 演題を発表し、熱心な討論が行なわれた。

さらに、稀な腹膜中皮腫症例を 53 例まとめて統計学的な見地から解析し、臨床画像上の中皮腫と癌性腹膜炎の鑑別点についても検討を行った。

最後に本研究に対して協力をいただいた研究協力者の皆様に深謝いたします。